

昭和五十三年九月招集

第三回館山市議會定例会會議錄第三号

館山市議會

目次

日時	一
場所	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	一
議事日程	一
開議	二
議案第四十六号、議案第四十七号	二
渡辺軍治郎君の質疑、当局の応答	二
石井輝久君の質疑、当局の応答	五
渡辺軍治郎君の質疑、当局の応答	一五
委員会付託	一八
議案第四十八号、議案第四十九号	一八
渡辺軍治郎君の質疑、当局の応答	一八
石井輝久君の質疑、当局の応答	二〇
委員会付託	二二
認定第一号、認定第七号	二二
渡辺軍治郎の質疑、当局の応答	二三
決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任	三五
延会	三五
本日の会議に付した事件	三六

一、昭和五十三年九月二十六日（火曜日）午前十時

二、館山市役所議場

三、出席議員 二十六名

一番 吉田勇治郎	二番 伊藤幸太郎
三番 矢戸寿夫	四番 押元 稔
五番 黒川平治	六番 鈴木正義
七番 本間昭二	八番 松下正己
九番 鈴木 稔	一番 近藤好雄
二番 栗原一雄	一番 林 豊
四番 石井輝久	一番 辻田 実
一六番 安西益男	一番 石井武敏
一八番 渡辺軍治郎	一番 渡辺昭夫
二二番 五十嵐 昇	二番 菊井敏博
二五番 伊賀多明	二六番 藤田益治
二七番 速山ヨネ子	二八番 石井 正
二九番 望月 照正	三〇番 山口 康
欠席議員 四名	
一〇番 流山源次郎	二〇番 和田一郎
二一番 田中禄郎	二四番 西村真次

四、出席説明員

五、第一号に同じ

六、出席事務局職員

七、第一号に同じ

八、議事日程（第三号）

昭和五十三年九月二十六日午前十時開議

日程第一

議案第四十六号

館山市災害住宅復旧資金の貸付けに
関する条例の制定について

議案第四十七号

財産の取得について

議案第四十八号

昭和五十三年度館山市一般会計補正
予算(第三号)

日程第二

議案第四十九号

昭和五十三年度館山市国民宿舍特別
会計補正予算(第一号)

認定第一号

昭和五十三年度館山市一般会計歳入
歳出決算の認定について

認定第二号

昭和五十三年度館山市国民健康保険
特別会計歳入歳出決算の認定につい
て

認定第三号

昭和五十三年度館山市と畜場特別会
計歳入歳出決算の認定について

日程第三

認定第四号

昭和五十三年度館山市国民宿舍特別
会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号

昭和五十三年度館山市ユースホステ
ル特別会計歳入歳出決算の認定につ
いて

認定第六号

昭和五十三年度館山市学童災害共済
事業特別会計歳入歳出決算の認定に
ついて

認定第七号

昭和五十三年度館山市水道事業特別
会計収支決算の認定について

開

議 午前十時二分開議

○議長(吉田勇治郎君)

本日の出席議員数二十四名、これより第
三回市議会定例会第三日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開
きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長(吉田勇治郎君)

日程第一、議案第四十六号館山市災害住
宅復旧資金の貸付けに関する条例の制定について及び議案第四十
七号財産の取得についてを一括して議題といたします。

議案第四十六号 館山市災害住宅復旧資金の貸付けに関する条
例の制定について

議案第四十七号 財産の取得について

質疑応答

○議長(吉田勇治郎君)

これより質疑に入ります。
通告がありますので順次発言を許します。一八番渡辺軍治郎君
登壇願います。

(一八番議員渡辺軍治郎君登壇)

○一八番(渡辺軍治郎君) 私は議案第四十六号館山市災害住宅復
旧資金の貸付けに関する条例の制定について質問いたします。

第四条の二は資金の貸付期間を決めています。据置期間一年
は普通の貸借と違い、いわば非常の事象ですから、そういう据置
期間はもう少し余裕をみたらと考えますが、一年とした根拠につ
いて伺います。

次に、第五条では借受人は連帯保証人と連署で市長に申請する

ことになっていますが、復旧に困難な状況の中でかなり無理ではないか。第七条の三で市長が貸し付けることが不適当と認めたときは貸付けを行わないことができるという規制があるので十分と思うが、伺います。

議案第四十七号財産の取得についてですが、県有地である正木の衛生処理場の敷地と隣接民有地を買収しようとするものですが、衛生処理場は移転が決まっており、跡地の利用をどう考えているのか、伺います。

合わせて、県有地は湊川の護岸と接触しておりますが、河川敷を含んでいるのかどうか。もし含んでいるとすれば、河川敷の面積はどのくらいあるのか合わせて伺います。

○民生部長（石井 謀君） 議案第四十六号の資金の貸付けの据置期間の関係でございますが、これは一年ということでございますが、確かにおっしゃる通りに一年間では少し短いのではないかと、いろいろな、私も検討の段階におきましてそういうような考え方もあったわけでございますが、貸付けにつきましては皆さんから出された税金の扱いになりますし、そういうようなことで据置期間をあまり長くすることについて、だんだんと返す負担が大きくなるということで、延滞という考え方もありますので、据置期間を一年といたしまして、あと九年間で返すという考え方で、一年間の据置期間を決めたわけでございます。

二番目の御質問につきまして、連帯保証人は必要ないんではないかということでございますが、先ほども申し上げましたように貴重な財産を貸し付けるために当然連帯保証人を付けることが適当であろうというふうに考えているわけでございます。たまたま

この条例の制定にあたりまして千葉県の災害弔慰金の支給及び災害援護資金の貸付けに関する条例、こういうものがあるわけでございまして、こういうようなものを引用いたしまして連帯保証人を付けたわけでございます。

四十七号の正木処理場の跡地利用についてですが、これは現在跡地利用についてはまだ考えておりません。ただ今後の問題として重要な問題でございますので、相当検討しなければならぬと考えます。

それから、河川敷はどのくらいあるかということでございますが、現在正木の処理場として使用いたしております土地につきまして、実際に河川敷として残っている部分というのは実測いたしておりますませんが、正木の処理場として利用いたしておりますその面積が当初六万八千八百平米あったわけでございます。その河川敷に近いところに一本の道路があるわけであります。それから下がずっと河川敷になっているわけでありまして、その内今回五千九百五十三・一七平米を買収しようとするものでございます。そのほかに現在河川敷名義になっております土地で県に所管がえをしていない土地が四千二百七十一平米あるわけでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） 最初の据置期間の問題ですが、返済期間が短くなるからというように話ですが、災害を受けて非常に困っている、復旧にはかなり時間的にもかかると思うんですよ。たとえば営業している者だと、営業するに至るまでのそういう期間とか、そういうものを考えると、一年では——普通の場合だったらいいかもしれませんけれども、災害、事故にあった時点で、少なくとも二年ぐらいは据置期間を置いたほうがいいので

はないかと思うんです。

それから、もう一つは連帯保証人ですが、県の中小企業金融貸付けですか、無担保、無保証、無利子という制度もあるわけですよ。おそらく二百五十万から三百万ぐらいになっていると思うんです。限度額は、そういうこともあります。この場合はやっぱり災害を受けて困難な時期ですから、また、状況とすれば不況の中でかなり収入も制約されて困っているというような状況の中では保証人を頼むほうも、頼まれるほうも、自分の事業なら事業でぎりぎりいっばいだ、人の面倒までみられないという状況が、いまの不況の中で倒産がずっとふえているというような状況もあるんです。だから、そういう中で連帯保証人を付けるということはなかなか借りるほうも困難になり、災害を受けて早く復旧したいといっても、連帯保証人の問題でなかなかけりがつかないということも考えられるわけです。

また、連帯保証人を付けなくても、第七条の三で市長が不適当と認めれば貸し出しをしなくてもいいという規定があるわけです。だから不適当であるということを審査の上で認めれば市長は貸し出しを停止するということもできるわけです。そういうところからいけば、無理に連帯保証人を設けなくてもいいのではないかと思います。いうふうに考えますが、その点を重ねて質問したいと思います。

○民生部長（石井 謙君） 先ほど申し上げましたように、据置期間を長くするということにつきましては、それ以後の返済金が非常に多くなるわけでございます。そういうような関係からいたしまして、一年間を据置期間とすれば逐年相当な額を返還しなくても済むのではないかというように考え方であるわけでございます。

それから、二番目の連帯保証人の関係でございますが、これにつきましては先ほど申し上げましたように、住民の貴重な財産を貸し付けるわけでございます。そういうようなことで連帯保証人を付けるということが適当であるというふうに判断をしたということでございます。

それから、また、さっきも申し上げましたように法とか、あるいは千葉県の貸付けの条例等から検討いたしますと、どこでもみんな連帯保証人というのがあるということからいたしまして、この二点で連帯保証人を付けることにいたしましたわけでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） 抜けているのがありますが、私が聞いているのは――三回ぐらしか質問できないから念を押すわけですが、その据置期間を多くしろと言っているんじゃないんです。さっき質問したのは一年を二年にしろということなんですが、お宅のほうは返済期間が短くなるからということで借受人に対して同情していますけれども、同情するならば、困っている人たちに返済期間を据え置いたほうが本人にとっては助かるんじゃないんですか。そこらがおかしいと思うんです。考え方の上で。非常に困っている人たちなんです。復旧してよくなったから返済はできるわけです。そういうことで同情しているわけでしょう。返済に困るから据置期間を短かくしたんだ、二年ぐらいいでいいかということなんです。九年で返すところを八年で返す。そういうことを質問しているわけです。

連帯保証人の場合、これは七条の三と関連して聞いているわけです。市長が不適当と認めれば貸し出しをしなくてもいいわけですから、だから困っている人たちに、保証人を頼むほうも、頼まれ

るほうもいまのような経済状況の中では非常にむずかしい問題があるんですよ。借りる本人の側に立って考えてやれば、一応審査の上不適當と認めれば市長は貸し出さなくてもいいわけですよ、これでいい。そういうことを聞いているわけですよ。だから、そこらではもう少し災害を受けた人たちの立場に立って考えてやる必要があるのではないか、重ねて質問いたします。

○市長（半澤良一君） この条例は渡辺議員のおっしゃる通りに災害になって困っていらっしゃる方のためにつくる条例でございますので、基本的にそういう方々を救うという考え方でございます。

据置期間を一年にしたらいいのか、二年にしたらいいのかということは考え方の分かれるところでございまして、民生部長答弁したように、二年にすれば実際返済する期間が八年になって単年度の負担が重くなる、据置期間を一年にすれば九年で返済するということで単年度の返済が軽くなる。どちらがいいかということは見解の分かれるところでございますが、私どもは毎年返す負担が軽いほうがいいという考え方に立たなければなりません。そういうふうに御理解いただきたいと思います。

それから連帯保証人の関係でございしますが、これは困っていらっしゃる方を救済する意味のものでございますが、基本的には市民の税金でまかなうわけでございますので、お貸しした金が確実に返ることを望んでおるわけでございますけれども、とにかく貸してあげたいというのが基本にあるわけで、不適當な場合は貸さないでいい、そういうことをまず前面に考えるべきでなくて、その方自体は返済能力に多少問題があるにしても保証人を付けてくれば貸してあげられる、そういう、むしろ貸すことを主体に考え

ているわけでございます。

なお、この条例の第十一条にも規定してございますように、場合によれば償還未済額の減額、又は一部を免除することもできますし、また、これが期日を猶予することもできますので、そういう保証人を付けていただいた上で、運用の上で考えていきたいと思っております。

○一八番（渡辺軍治郎君） 次、議案第四十七号について……。

（「一括だ」と呼ぶ者あり）

○一八番（渡辺軍治郎君） 一つの課題で三回と思ったんですが、

あとで質問します。

○議長（吉田勇治郎君） 次、一四番議員石井輝久君。

（一四番議員石井輝久君登壇）

○一四番（石井輝久君） 昨日の正午までが通告の締め切りでございましたので、本会議開会中あわてて通告の項目を作りましたんで、多少不備な点があると思いますが、その点については事後にまた質問させていただきます。

まず第一に、四十六号議案館山市災害住宅復旧資金の貸付けに關する条例の制定について御質問申し上げます。

本条例案の一番最後の附則を見ますと、「この条例は、公布の日から施行し、昭和五十三年十月一日以後に発生した災害等から適用する。」こうなっております。そこでまず第一点といたしまして、本条例の公布の予定日、いつをもって公布しようとしているのかお伺いをいたします。

この附則を見る限りにおきましては、この条例案は先議案件として議会側にその取り扱いを要望されているということは何って

おりません。したがって当然この条例は十月四日、議会の最終日に可決されることになるわけでありましょう、そうすると施行が十月一日、条例案の可決が十月四日、そうすると十月一日以降四日までの間、あるいは公布までの若干延びる間発生した災害につきましては条例がなくて適用しようとするのかどうか、その点につきましても合わせましてお考えをお聞かせいただきたい。どうも扱い上ちょっと疑義を感じざるを得ないのでございます。

ただ、本条例は、一七番議員も昨日本会議で質問してありましたけれども、この地方一体、千葉県全体と言ってもいいでしょうし、あるいは東京都を含めて、伊豆方面、あるいは東海地方を含めて災害の発生が憂慮されておるときにあたりまして、この条例が制定されようとしていることにつきましては、時宜を得ているものとして喜ばしく感じております。

質問の第二点でございますが、この条例が可決をされてまいりますと、当然条例の二条ですか、災害等——暴風、豪雨、豪雪、洪水、高汐、地震、津波、その他の異常突発的な自然現象、火災爆発、相当広い範囲に適用されるわけでございます。ところが、また後の議案で審議することになります、四十八号議案、この一〇ページを見ますと、これは後に審議することになるんですがこの条例の裏打ちの予算として一〇ページの二款総務費一項総務管理費七目防災対策費として二百万円計上してございます。これが裏打ちになっておると思うんですが、これを見ますと一件分、せっかく時宜を得た条例を制定しようとするのに貸付限度額二百万円、その一件分しか予算の裏打ちがしてない。五件発生した場合に、しかも仮に十月二日に五件のこういった異常災害

が発生した場合、一体どういう扱いをするのかについてお伺いをいたします。

それから、第三点目でございますが、四条の一号の「資金の貸付限度額 二百万円以内とし、その貸付限度基準は、別に定める。」こうなっております。ところで、四条一号に言う別に定める貸付限度基準、これを参考のためにお示しをいただきたいのでございます。

それから、質問の第四点でございますが、第五条の二項に市長は提出された書類その他について審査の上貸付の可否を決定し云々でございます。審査はどういう手順で、どんな方法で審査をされるのか、実際に審査に当たられるのはどなたであるのかについてお伺いをいたします。

次に、第七条の三号に——これは貸付に当たっての規制でございます。三号で「その他市長がこれを貸し付けることが不適当と認めたとき。」とございます。不適当と認める基準について御説明を承りたい。甲乙丙丁、いろいろ審査がくる、あれはちょっと——これはあからさまに——そういうことはあるはずはないでしょうけれども、あれは選挙で敵方だからちょっと不適当だ、こういうことで貸付けが行われる、そういうことはあり得るはずはございませんでしようけれども、不適当と認める、しかも市長が不適当と認めるんですから、その基準をお示しいただきたいのでございます。

それから、最後に、十二条に「災害救助法の適用を受けた災害等の場合にあっては、適用しないものとする。」ということでございますが、議案の説明資料二ページの最後を見ますと、この規

定の本条文、すなわち十二条の説明がでございます。「災害救助法の適用を受けた災害等によりこの条例の適用外となる事例はおおむね次のとおりである。」、これを見ますと、ちょっとこの説明では、ほかの議員各位はおわかりになるかしりませんけれども、ちょっと理解しかねる説明でございます。そこで災害救助法の説明がなくて、どこを、たとえば何条何項だと法律で御説明いたしたいと存じます。

これで四十六号議案の質問を終ります。

続きまして四十七号に移ります。

四十七号議案は財産の取得、そして県有地、それから私有地、この二件を取得しようとする議案でございます。まず具体的を質問の前に、正木処理場というのは地元地区との契約によって地元へ返還する時期が定められておったように記憶をしております。そこで昭和何年何月何日をもって地元へ返還するんであるという時期をお示しいただきたいと存じます。それが質問の第一点でございます。

続きまして、この正木の衛生処理場の西側に隣接している株式会社明石建設の所有地について、粗大ごみ処理等を考えて、この際合わせて県有地と同時に買収しようとするものという御説明でございます。そこで、西側の隣接地を取得をしたときに、質問の第一点にある返還の時期を過ぎて、実際処理場を返還してしまつたあとのこの私有地のその後の利用方法、あるいは利用価値はどんなものか、これについてお伺いをいたします。

そして、また第三点といたしまして、この取得財産、つまり取得しようとする財産は、館山市にとって将来とも必要であつて

不可欠な財産としてお考えかどうか、合わせてお伺いをいたします。

次に、この取得しようとする二件、これは必要不可欠かどうかということはいまだいふ三点目に質問しましたんですが、この取得しようとする二つの財産、これはそれぞれ三千百二十五万四千四百四十二円が県有地、二千六百九十四万四円が私有地、こういうことでございますが、次の四十八号議案の中で、この財源を起債に求めておられるわけです。つまり一般財源として館山市には財源の余裕がないから、起債を申請して、その認可をちょうだいして、要するに借金で取得をする。借金で取得をしなければならぬほどの議案かどうかについての御説明をいただきたいんです。

合わせまして、そこで、いま申しました次の議案の一五ページの地方債調書で、とにかく館山市の地方債総額は、予算規模は六十五億ですか、に対して、三十四億九千七百万余円の地方債総額に増大しているわけでございます。要するに市民に将来ともツケが回ってくる、こういうことでございますので、この議案につきましてそういう財政上の面からいささかの懸念を感じざるを得ないということを申し添えて質問を終ります。

○総務部長（鈴木弘道君） 私のほうから最初の御質問ありました公布の日の関係についてお答えいたします。議長から送付を受けました日に速やかに公布して施行したいというふうに考えております。

附則の関係でございますけれども、附則で五十三年の十月一日以降に発生した災害から適用するということでございますが、公布されますとそれで適用になるわけでございますけれども、この

対象になります事例につきましては、十月一日以降に発生した災害からこの附則をもって適用しようということで、特にこの設けた事項は今回の議会の最終日が十月四日ということでございますので、十月一日以降に発生した災害から適用したいということで特にこの附則を設けて範囲の拡大を図ったわけでございます。

○民生部長（石井 謙君） 質問の第二点でございますが、非常に広い範囲で災害の貸付けを行うということで、金額的に二百萬しかないがという御質問かと思いますが、この点につきましては、今後どの程度あるであろうかということがはっきりわからないというわけで、最高額の一件分を予算化しまして、その時点でいろいろと多くなった場合においてはその議会の時点で追加をお願いしたい、なおそれに間に合わなかった場合については予備費を流用させていただくというような考えから一件分をお願いしたわけでございます。

それから、質問の三の四条の一号でございますが、貸付けの限度基準は別に定めるということでございますが、これは規則で一応考えていきたいということでございます。いまの考え方としては半壊、半壊は半額の百万以下、全壊、全壊は二百萬以下、同等と認められる特別事情の場合は二百萬以下というようなことで、規則で考えたいと思います。

第五条の二の審査の手順とだれが審査するのかということでございますが、申請があった場合につきまして、たとえば火災の場合、これは全焼か半焼かというような判定というものは消防長の罹災証明書をいただくような考え方でおります。そういうようなことで申請があった場合には、その判定は消防長であるし、また

ほかの関係につきましてはいろいろ規則の中でうたいましてそれを審査していく。その審査に当たってはだれがやるかということでございますが、これはもちろん市長でございますが、担当課長が……。

それから、五番目の七条三号「その他市長がこれを貸し付けることが不適當と認めたとき。」、不適當の基準でございますが、これにつきましてははっきりとした考え方は持っておりませんが、現時点におきましてはまず市税を滞納している者、こういうような者と重過失で社会的に不適當と思われる者、この二点について一応考えておるわけでございます。

六番目の十二条の適用外につきまして、「災害救助法の適用を受けた災害等の場合にあっては、適用しないものとする。」というわけでございますが、広域かつ大災害の場合におきまして、これは当然特別な措置がなされなければいけないわけでございます。この制度は極地的な災害に対処するためをお願いするわけでございますが、この災害救助法の第二条、これに基づきます政令の第一号につきましては市の場合、これはもちろん県知事が発令するわけでございますが、市の場合八十世帯以上滅失した場合、県下におきまして二千五百、そして市が四十、それから全県下の場合には一万二千戸というようなことであります。そういうような適用基準があるわけでございます。

次に、四十七号議案の地元地区との契約の期日でございますが、正木処理場の増築工事を、四十九年度にトントン併設したわけでございます。その時点におきまして覚書が取り交わしてあります。その覚書の内容としましては、昭和四十九年八月二十日那古地区

四部落代表、正木連合区長黒川勇殿ほか三百十一名の上申による焼却炉移転については下記のとおり表明いたしますので、十トン炉増設については御協力願いたいということで、記 焼却場用地取得については今般館山市議会の議決を経た館山市基本構想に基づき実施計画により昭和五十年以降三カ年間の間に必ず取得し、焼却炉建設については引き続き二カ年継続事業として責任をもつて建設いたします、ということと覚書が交わしてあるわけでございます。したがって四十九年の十月から三カ年間の間に土地を取得しなさいということでございます。それから、それ以後二カ年間、来年の九月で五カ年間に経過するわけでございます。

御承知のような現況下におきまして、覚書が果たせないというような考え方もございまして、この正木連合会の正木の区と三つの部落の代表者の方々と先般話し合いましたして、来年の九月までにひとつ土地を探すようなことで了解をいただいたわけでございます。

次に、明石建設——要するに西側にございます、その後の利用方法でございますが、今回明石建設の土地を買収いたします理由といたしましては、最近非常に粗大ごみがふえてきております。そういうような関係でその敷地に実際困っているというような状況でございます。そういうようなことで粗大ごみを置くためにあそここの場所をぜひ買収したいという考え方でございます。

将来のことにつきましては、検討いたしております。ただ考え方によりましては、あそこに埋め立ても可能をわけでございます。そういうようなものを踏まえながら今後利用していきたいというところでございます。

それから、三番目に財産を購入することについて、将来不可欠かどうかというようにございしますが、県の用地につきましては、再三県のほうからあそこ周辺は売り渡したいという要望もありましたし、将来的には、たとえば正木の処理場が移転をいたしましたも、道路沿いでございますので、将来何に利用いたしましたしても利用度が多いというところから、しかもその買収価が、公共施設が現在でございますので、半額で買収できるということで、県の場合はそうでございます。

明石建設の場合におきましては、現在明石建設と正木処理場の今回買収しよういたします土地の中間に約四千平米近い土地が河川敷で残っているわけでございます。その土地を将来県が所管がえをした場合にそれと地続きになるんだ、そういうようなことでそれが地続きになれば相当広い範囲で利用度が高まるということでございます。

○総務部長（鈴木弘道君） 地方債の関係でございますけれども、この用地取得事業がいわゆる住民全体の福祉の維持に役立つわけでございます。それと緊急な事業ということでもございますので、一応起債の許可が得られる見込みでございますので、一応財源として地方債を充てることにいたしました。

それと、地方債の額が増加しているのではないかと、御指摘でございますけれども、県下の二十六市の五十三年度の予算によりまして、地方債の現在高で一世帯当たりでも試算してみますと、いわゆる少ないほうから三番目という額でございます。必ずしも地方債そのものが全体として増加しているとは思っておりません。

○一四番（石井輝久君） 再質問いたします。

まず質問の第一点でございますけれども、御説明によりますと、これは当然のことでございますが、可決をした条例案は議長が市長に送付をする、その送付をしたものが到達をする、それから公布する。これは御説明いただかなくても定められたものでございます。だからいつを予定しているのか、予定している月日を聞いてたんです。いつ公布しようとしているのか、予定日。手続は私はわかっているんです。お考えとして緊急だから即日公布したいというのか。そうしたら議長は予定というか、そういう要望があったら手続を早くとるでございましょうし、通常ですと郵便で送付するんですかどうかわかりませんが、若干時でも遅れるわけでしょ、可決してから市長のところへ議長から到達するまで。ですから、あなた方は執行部として緊急な案件だからいつ公布を予定しているのかということをお伺いしたんでございます。

それから、ただいまの御説明によりますと、こういう緊急の、公布の日から施行する、しかも適用するのは十月一日から適用、だから附則を設けたといえますけれども、それだったら条例の扱いとして、議会は九月二十一日から始まっていますから、十月一日からこの条例を適用したいとするならば、十分審議の余裕があるんですから、先議案件として扱いを議会側に要望しておいたらよかったです、扱いとして。実際十月四日に可決が決まっているんだから。しかしいまからだって緊急案件だといえれば議長のほうで扱いを慎重に考えるでしょうけれども、これ本来にあればですよ。十月一日施行しようとしておるわけでしょ。しかも予算の計上は二百万円、それは次の質問で触れますけれども、も

し十月二日に災害が起こったら困っちゃう。うんじやないですか。まだ条例は制定されていません。しかし適用は十月一日、条例が可決されてなかったら適用できません。空文ですよ。可決しない条例ですから。そこらが議会に提案する議案として慎重な配慮のもとに市民サイドに立って、災害が発生したらどうするんだ、一七番議員なんか議会のたびに災害の質問をする、そのくらい市民の関心は高まっている、そして不安におののいているんです。ですから市民の立場に立って温かい配慮をしようとするならば、議案そのものも温かい配慮をして、慎重な配慮のもとに、取り扱いですから議会側と相談して、円満にスタートできるような扱いをすべきが妥当である。私はこのように考えますが、この点についてお考えを再度お伺いいたします。

次の、第二点でございますが、ただいま民生部長からの答弁で将来どの程度発生するかわからない、とりあえず一件だけ計上した、将来発生したらその時点で追加計上を考えている、それでもあれだったら予備費の充用を考えている。こうした御答弁でございますが、予備費はそのためにありますから予備費は充用できますよ。ですが、せっかくつくる、誠に時宜を得た条例でございします。どの程度の発生かわからないからこういう条例をつくるわけです。とりあえず一件分、まあ財政難の折から一件分、予備費は幾らございしますか、一千万でしょ、五件で終わっちゃう、最高限度額。ですから、ひとつせっかくお作りになる条例ですから、予算の裏打ちだつてそれに対応する裏打ちをする、これが市民に對する配慮、不用額になつたら翌年に繰り越していいでしょうし、そう私は思いますけれども、しかし増額を、修正していいこうとい

う気持ちには毛頭ありませんけれども、予算のうちのやりとりの中には呼び水ということもあります。だから一件分が呼び水として計上されているというふうな理解の仕方をすれば、これは一歩も二歩も前進でございますからよろしゅうございましょうけれども、将来の問題として予算の計上にあたって、十分とはいかなくても最高限度額一件分ではまことに心もとない裏打ちになるうかと思うので将来の問題として御検討といえますか、考慮の中に入れておいていただきたいと存じます。この点に關しまして再度お考えをお伺いしたいと存じます。

次、四条一号でございますが、貸付けの限度基準、これは規則で考えていきたい、これは当然です、「別に定める」というので、それから、別に定めるんでございましょうが、定める基準が条文の検討の段階であると思いますので、ただいま半壊、半焼、それから全焼の場合はこれこれという御説明ありましたけれども、私がお聞きしたのは、参考のために限度基準そのものをお聞かせ願いたいということでございますので、再度お伺いします。基準そのものをお聞かせいただきたいということでございますので、再度お伺いいたします。

五条、審査はだれがあたるか。先ほど事例として火災の場合を引例いたしました、この場合には消防長の罹災証明、それが必要だ、ただ審査は担当課長がおやりになる、最終的に担当課長というと社会開発課長になると思いますが、条例の中には委員会とかそういうものがあるかもしれませんけれども、これだけの大災害が起これなければいいんですが、担当課長が審査に当たるということですが、今後将来にわたって担当課長が審査にあたるといふ、こうい

う方針でいかれるのかどうか、その点を再度お伺いいたします。それから、第七条の三号の市長が不適當と認めたというのは、どういう基準で行うのかということに對しまして、いまはっきりした考えは持っていないけれども、一つには市税の滞納者、一つには重過失で社会的に不適當と認めた者というような御答弁であったように思いますが、このところちょっと、重過失で社会的に不適當と認められるもの——もうちょっとかみ砕いてやさしい言葉で御説明いただきたいと思ひます。

それから、最後の災害救助法のあれですけれども、これは災害救助法の二条で政令の一号という御説明があったようにも記憶しております。そして政令の一号の中に説明資料の中の二ページの末尾近くにある、館山市内の災害——住家が滅失した世帯の数十戸、県内の災害で館山市内の災害云々、こういうことになるうかと思ひますが、このことにつきましては災患はのちほどまた勉強させていただきますので、この点に關します質問は打ち切ります。四十七号議案でございますが、要するに第一番目の質問は、正木衛生処理場の事務的な契約、覚書でございます。これについてタイムリミットはいつだろうかという質問でございました。要するに五十四年九月が覚書による最終の期日である、このようにただいまの御答弁で理解をいたしました。しかしながらこれはとてもおぼつかない、實際移転をする可能性がきわめて少ないということと再度折衝をして延長に同意をいただいたという理解でよろしゅうございますか。その点再度御質問申し上げます。その場合は大体猶予はどのくらい目途として延長できるのか参考のためにお聞かせ願ひたいと存じます。

それから、同じ四十七号議案の中の質問の二点目でございます

けれども、ただいまの御説明で、実際粗大ごみの処理等で現在の敷地では困難をきわめているのでぜひとも買収したいというお気持ちにはこれでわかりました。了承いたします。

それから、次の質問で、県有地を取得すると安し、あるいは市道に付いているから将来の利用度も高い、これもわかります。

合わせて、河川敷で四千二百七十一平方メートルあるので、これを将来取得すれば「私」の土地と続いているので、移転後も埋め立て可能であるし、利用度も高いという御説明でございますので御了承いたします。

それから、地方債はこれまで改めて予算面で質問いたしますので、この点に關します質問はこれで打ち切ります。

ただ、一つ御質問申し上げておきたいのは、「私」の土地はこれは地目が書いてございせんが、地目が何であるかということ。それともう一つ財産の表示―数量（台帳千九百九十五平方メートル）、数量で二千五百七十七平方メートル、こうございます。一体どっちで買いになるのか。取得金額は明示してありますからわかりますけれども、台帳面積で買われるのか、それともここに書いてあるいわゆる数量で買われるのか。この点が説明にも書いてないし、市長の提案説明にもおそらく触れてなかったように思われますので、その点お聞かせ願いたいと思います。

以上、質問いたします。

○総務部長（鈴木弘道君）　まず第一点目の条例の公布の關係でございすけれども、希望日といましては、議会で議決いただきました日即日施行ということを予定しております。

それと、もう一点の公布の日と条例の施行日との關係でございすけれども、この条例の内容がいわゆる住宅を罹災した者に対する貸付金という性質でございすので、一応そういうようなことを考えまして附則でさかのぼって適用ということを考えて、このようにいたしましたわけでございます。

○民生部長（石井 謙君）　お答え申し上げます。

二点目の關係でございすますが、これは二百万円、将来の問題としてどうするかということですが、こういうような事故があつてはまずいわけでございすますが、予算措置としては将来的にも一件程度で私はいんではなにかという気がするわけでございす。これはあくまでも私の考え方でございます。

それから、三番目の四条一号の基準ということでございますが、これは先ほど申し上げました内容が規則としての基準の考え方でございます。

それから、五条の二項につきまして、その審査を将来担当課長がやるということですが、これはもちろん市長でございますが、担当課長がその任にあたるということでございます。現時点ではそういうふうなことでございすますが、将来的な問題としては私からは申し上げられません。

それから、七条の三号につきまして、これはさっき申し上げましたように市税を滞納している者、こういうような方につきましては実際に税金をお貸しするわけなんで、その市税を滞納するような方については遠慮してもらわなくち。いけないではないかというような考え方から市税を滞納している者については不当。それから重過失で社会的に不当と思われる場合、これは

考え方によっていろいろあるかと思いますが、一般的にそういうふうな重過失で社会的に不適当というふうに思う、これは具体的な例を申し上げるというよりも、そういうふうな考え方で御了解をいただきたいと思います。

それから、四十七号の地元との契約につきましては、五十四年の九月ということが最終的な覚書でございました。この前いろいろ地元の代表者の方と話しをいたしましたのは、現状をうったえまして、現時点ですぐ来年の九月に移転するということは、し尿処理場の問題もあるし、お約束どおりに努力はいたしますが、本来ならば三年目にもう土地を探さなくち、いけないような内容でございまして、もう少し、そういうようなものを踏まえて若干猶予期間をいただきたいということで、その時点で来年の九月頃までに土地を探してくださいという、そういうような状況でございまして。

○議長（吉田勇治郎君） 買収する土地の地目、あるいは面積について質問がありましたか……。

○民生部長（石井 謙君） 答弁漏れがございましたので……。

四十七号の財産取得の關係につきまして、地目でございますが、これは雑種地でございます。

それから、数量の關係につきましては、実測によるもので買収契約をいたしたいと思ひます。

○市長（半澤良一君） 審査の機関でございますが、特に審査委員会といったようなものはないので、担当課で審査をするつもりであります。

○一四番（石井輝久君） 大体両議案とも了解をいたしました。

そこで、最後にちょっとお伺いをしておきます。

四十六号議案の貸付け条例案でございますが、即日施行を期待しておられるようでございます。私は質問者ですから、あとは議長とよく打ち合わせをされることになろうかと思ひますので、私は質疑だけですから、こういう内容の条例の提案の仕方、これに当たりましては、本当に適用して市民のために貸付けをするという事態が発生しては困るんだけれども、しかし災害というのはいつやってくるかわからないのが災害ですから、十月二日に仮に起こった、十月三日に起こった、そういう場合に市民がとまどつてしまふ。しかも条例はまだ可決されていない、しかも適用しない、私どもは市民サイドですから適用したい、しかし条例ができてないものを適用しようといつても適用できない、そこでこういう空白期間、せっかくこの条例を制定するその趣旨はいいんですから、空白を生じないような配慮をするのが行政の執行にあつては人の責務だと思ひます。起こらないからいい、しかしあつた起こるかもしれないというのが災害ですから、だから今後とも慎重な配慮のもとでお扱ひいただきたいという要望して、この点に關する質問を打ち切ります。

それから、予算の裏打ちでございますが、民生部長のお考えは、将来とも一件程度で予算計上はよろしかろうというお考えを表明されたんで、民生部長が考へているのはいけないとか、いいとかそんなことは私は申しません。ただ私としては一件程度の予算の計上ではちよつと心もとない、不満足、こういうことを申し添えておきます。あとはさじかげんのあれですから、どうこうここで論議することではなからうと思ひます。満足がいくかなという不

安を覚えるという表明だけにとどめておきます。

次の限度基準、これは先ほどの答弁のとおりというのと、とにかく規則では半壊、半焼、全焼、それが定められている、そのほかのあれは定められていない。全壊、全焼と半壊、半焼と、それ以外の基準はない、このように理解してよろしくございますか。この点は再質問いたします。

私は、別に定める限度基準というから、別に定める基準そのものを参考のためにお聞かせ願いたいという質問なんです。「先ほどの答弁」という再質問に対する答弁ですから、第一回目の答弁で半壊、半焼、全焼これだけが限度基準として定められていて、その他に対する基準の定めはない。このような理解の仕方ではよろしくございましょうか。私の問いは、そうでないとするならば限度基準そのものを参考のためにお聞かせいただきたい。私どもはいいい条例だから、適用の基準をなるべく多くしてもらって、災害発生時になるべく市民の多くの方にこれを適用していただけるような配慮がほしいわけなんです。そういう点でお伺いしているわけでございます。

それから、次の質問ですが、審査はたとえば市長の御答弁で将来とも担当課長、これでいきたい、審査に関する機関を特定しないというお考えですから、それはそれで了承いたします。

それから、次の七条三号の市長が不適当と認めるといのはどんな基準かということに対して、市税滞納者、これは市税を滞納している人では返済を期待できないから不適当と認めるのもやむを得ないと思いますが、そのあとの御答弁ですと、いまあまり戸籍面ではかつてのように前科何犯とかというようなことは記載さ

れてないし、わからないのがいまの戸籍のためであってしょうけれども、端的に言って前科者は除外する、このように理解してよろしくございますか。重過失で社会的に不適当と認められる者、もうちょっとかみ砕いて御説明いただきたいという再質問だったんですが、再質問でも重過失で社会的に不適当と思われる者、不適当と認める基準としてどの範囲なのか。私どもはなるべく広い市民に適用をしてあげたいというのがこの条例の制定の趣旨だと思っております。そういう意味から再度質問します。もうちょっとわかりやすい日本語で、通用語で御説明願いたいと思います。

それから、処理場に関しましてはおおむね了承いたしました。ただし、買取にあたりまして実測面積で契約するつもりかどうかでございますけれども、普通私どもは——私は不動産業者でございますけれども、役所というのは不動産を取得するにあたって登記面積で買わずになわ延びのある実測面積で契約をされるのが慣行なのかどうか疑問を感じるわけでございます。相手方に増量登記をして、登記面積はこれですよと、これは当然のこととして、執行部はそのくらいのことは当然の措置であろうと思えますが、あくまでも登記面積ではなくて、ただいま答弁のように——実測するかしりませんけれども——実測面積で契約されるおつもりか。再度この点をお聞かせいただきたいと思えます。

（市長（半澤良一君）） 第七条の三号についてお答えを申し上げますが、これは第一号、第二号で具体的にこういう場合には貸付けをしない、それ以外に実際にはいろいろなケースが起り得るわけで、第三号がないと第一号と第二号だけでは貸付けざるを得ないことになってしまいますので、包括的な意味でこういう規定

を設けなければならぬと思います。市税の滞納者というのは一つの例に過ぎないわけです。具体的にどういう事例ということがわかれば一号、二号と同じように書いてしまうわけですが、そういうふうに決められない場合を想定して決めてあるわけです。

○民生部長（石井 謀君） 最後の土地の買収の関係でございますが、これは私が言葉が足りませんで、大変恐縮でございますが、県の場合は実例そのもののイコールでございますが、民有地におきまして台帳面積と実測面積が異っておりますが、売買についての考え方は実測で出しまして、実際の登記におきまして台帳面積で登記するというような考え方でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 一八番議員から四十七号議案について通告がされておるわけでございますので、一八番議員君の質疑を許します。

○一八番（渡辺軍治郎君） 勘違いして一つだけの議案の再質問に終ってしまったわけですが、その点申しわけないんですが、四十七号議案の先ほどの答弁では、移転後の跡地をどう利用するかという、考えがあるのかという質問に対しては考えていない。

それから、河川敷の問題であいまなんです。地図を見ても河川敷のところが明確になっていません。反対側に青果市場や魚市場がありますけれども、あそこに入る道路は河川敷です。だからそういうことで河川敷は当然先へ行けば道路として利用される可能性もあるわけなんです。だからそれまでこの中に含んでいるのかということ聞いたわけですが、そういう点では非常にあいまいな形になっているわけです。そこらもう少し、買収するとすれば、そういう点ははっきりした上で買収するのが当然ではない

か。

それから、ここに点線が書いてありますが、市道三号ですか、これはバイパス道路になるんですよ。だからその用地は一体取得する用地とどういう関係になっているのか。そのへんもはっきりしないと、これは当然用地としてとられるわけですから、そこらがどういうふうに面積との関連でなっていますか。

それから、利用の問題ですが、地図で見ますとずっとかなり細長くてウナギの寝床のような土地なんです。そして将来ここに国道ができるというふうなことになるのかなり利用価値というのは下がると思っています。しかしすぐ隣りには不二精工があるんです。その先には石井興業がある。この人の土地を入れていくというようなことはできないわけです。将来利用するとすれば河川敷を道路にして利用するとかということにならざるを得ないような地形になっているわけです。そういう点は将来利用するとすれば、将来の利用計画まで考えないで買収するということはあまりにも乱暴じゃないですか。

それから、もう一つはあと地をどう利用するかということで、その目的がはっきりしてないわけです。そういうものを買って、いつどういうふうに利用するんだということになれば、五年先になるか十年先になるのか、坪単価が一万七千幾らで安いけれども、十年も先にいつて利用するということになると利息がかさむわけです。結局高いものになるわけです。谷藤原の山林を買収した例でもはっきりしています。一億六千万くらいで買収したのが七年間ほおっておいて三億三百万円になっているわけでしょう。

だから利用計画もはっきりしないようなものを買うということは

いつ利用するかわからないわけですよ。だからいま言ったように十年先で利用することになれば十年間の利息が加算していくから、いま地価が安いけれども、買収価格は安いけれども、結局高いものになる。こういう利用計画はつきりしてない土地を安いからといって買収するのは問題だと思ふんです。

いま、当面市が取得しようとする土地は、優先順位から考えてみたら、結局し尿処理場の用地です。それからごみ処理場の用地も、これも移転するのが五十四年の九月ですか、そこにいけば移転しなくちゃならない。こういう用地の買収のほうは優先順位にあるんじゃないですか。起債が認められたからといって便宜のものも考えてやるということは将来に大きな問題を残す、そういうふうに考えられますが、その点はどういふふうにお考えになりますか。

○民生部長（石井 謙君） お答えを申し上げます。

説明資料にございます中に平久里川というのがございますが、その方の側に約三メートルぐらいの道路が一本あるわけでございます。それは図面に示してございませんが、この図面につきましては県におきまして実測いたしましたもので区画もはっきりいたしておるわけでございます。境界線ももちろんあるわけでございます。

それから、点線がございしますが、その部分が一二七号線パイパスの予定地でございます。それはしたがって買収はいたしません。

それから、利用計画のことでございますが、あそこの土地を買収いたしましたして原野でそのままほっておくということであればこれはいま渡辺議員さんおっしゃったように考えられるわけでは

ございます。現実には使っておって、さっきも申し上げましたが、粗大ごみ等が非常に多くなり、その敷地にも困っているような現状でございますので、将来でなくて現時点で利用しなくてはいいないような土地でございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） 私が聞いているのは、河川敷、いま幅三メートルと言いましたけれども、それを含めて買収するのかどうか。反対側に河川敷の道路があるわけです。将来を考えた場合には道路をつくとすればその河川敷をはずして買収するとか、そういうことも可能であるわけです。そういうものが含まれていると、その分までも買収すると——現実には河川敷は道路に使っているわけです。そういう問題があるから質問したわけなんです。これは河川敷を含んだ坪数なのかということがはっきりしないので聞いたわけです。

それから、利用価値の問題については、いま使っているからと言っても、当然いまのあれなら借りても使えるわけですよ。買収するということになると——将来のことですよ、利用計画というのは。いまは処理場があつて置場やなんか使うというようなことがあるけれども、買収しなくても借りたつてできるわけです。当然将来の利用計画があるとすれば——そういうものはないという答弁なんです。だからそれは乱暴だということなんです。少なくとも市民の税金で買収するわけですから、利用目的のはっきりしないようなものを買収するということになる、これは簡単にはいそうですかとは言えないわけです。

私たちは、考えても、土地を買う場合にはその土地を何に使うかということを考えて買うわけです。ところが移転してそのあと

跡地をどう利用するかということが考えの中に入っていなければ説得力は持ちませんよ。谷藤原の例を出しましたけれども、十年先いかなければ使うことはわからないということでは十年の利息がつくわけでしょう。安くても高いものになりますよ。結局市民に負担がかぶさってくるわけです。そういう無計画で土地を買収するということは全く問題ですよ。

ですから、いま館山市が当面差し迫って、土地の買収に迫られているのは両方の処理場用地ですよ。そういう買収のほうに金は回すべきじゃないのか。いつ使うかわからない、そういう土地を買収するのに金を使うなら、当面し尿処理場用地が必要なんです、これから交渉して買わなければいけない。急いでいるわけでしょう。そういうところの土地の買収をするのが行政とすれば当然ではないでしょうか。この点再度質問いたします。

○市長（半澤良一君） 渡辺議員さんのおっしゃることも確かに一理はございますけれども、明石建設の土地につきましては現在どうしても必要な土地でございますので買収したいということでございます。県の土地につきましては現在利用している土地でございますけれども、県から再三買い取ってもらいたいという要請がございました。いままでお断わりしてきたわけでございますが、そういういつまでも借りておくわけにもいかないという考え方から買うことにいたしましたわけでございます。

なお、し尿処理場等の敷地については、これはいつでも買うつもりであります。ただ買えない、場所の選定もできない、したがってもちろん土地を買えないから買わないだけでございまして、これはいつでも買うつもりであります。

○一八番（渡辺軍治郎君） 最後の質問になりますから……。

県が執拗に買ってもらいたいということのようですが、地方自治法では公共団体相互間の調整というやつがあるわけです。お互いのそういう利益を侵すようなことをしてはならない。当然県とすれば館山市に対して早く買えというふうなことで無理にそういうことを押しつけることはできないと思うんです。事情があれば幾らでも延ばせるわけです。だからそういう点では相互間の利益を侵さないような調整というのは県との話し合いでは当然できると思います。だからいますぐ買わなくてももう少し延ばしてもいいというふうなこともできるはずですよ。これは自治法でもってはっきり決めていますから、相互間の利益を侵してはならない。

それから、あと地利用の問題がはっきりしないで、それで優先順位としては処理場が必要だということは市長さんが言うようにはっきりしているんですが、問題はいま使っている——しかしこれは移転するわけですから、利用価値、先ほど石井議員からも質問がありましたけれども、あまり利用価値のあるような土地では、この図面で見てもかなり低いわけです。だから跡地をどう利用するんだということ、無計画で買収されるというふうなことが問題だということを言っているわけなんです、そういう点では私は非常に問題があるように思うんで、もう少し市長さんに、県との関係やなんかも、これは自治法では相互間のあれがあるわけですから、重ねて御質問いたします。

○市長（半澤良一君） 相互の利益の調整ということをおっしゃいましたが、これはいままで延ばせるだけ延ばしてきたわけですが、また市の土地を県に買ってもらっているケースもある

わけでございますので、そういう意味でお互いにこちら側の要求だけを通すというわけにはまいりません。県の言い分を聞いてやらなければならぬ場合もあるし、それが相互間の調整だろうと考えております。

それから、この土地につきましては、民生部長から申し上げましたように、南側に河川敷として現実に道路として使っている部分が三メートル幅であるわけでござります。今度買収しますその土地の中にはその道路は入っていないわけでございますので、そういう意味で利用価値が高い土地だと考えております。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で通告者による質疑は終了します。

通告をしない議員で何か御質疑等もあろうかと思いますが、これにて質疑を終りたいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

以上で質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長（吉田勇治郎君） ただいま議題となっております議案第四十六号及び四十七号の名議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開いたします。

午前十一時四十三分 休憩

午後一時二分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十三名、休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第二、議案第四十八号昭和五十三年度館山市一般会計補正予算及び議案第四十九号昭和五十三年度館山市国民宿舎特別会計補正予算を一括して議題といたします。

議案第四十八号 昭和五十三年度館山市一般会計補正予算（第三号）

議案第四十九号 昭和五十三年度館山市国民宿舎特別会計補正予算（第一号）

質疑応答

○議長（吉田勇治郎君） これより質疑に入ります。通告がありませんので順次発言を許します。

一八番渡辺軍治郎君。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一八番（渡辺軍治郎君） 議案第四十八号昭和五十三年度一般会計補正予算について質問します。

九ページの寄付金四百五十八万円の内容について伺います。

一〇ページ七目防災対策費二一節貸付金二百万円は、一件当たりの限度額に相当しているので、予算としては少ないかと思いますが伺います。

これは、午前中の議案で問題になったわけですが、たとえ被災で類焼するというようなことで災害件数がふえた場合には限度額二百万では足りないわけで、これは午前中の回答ではその起こったときに措置するというような答弁、あるいは予備費から繰り

上げというよりなことを言われていますが、この問題については災害というものはいつ起こるか分からないというような事態ですから、そのときになって対処するというものではあまりにも準備がなさ過ぎるのではないかと。そういう点では不十分な点があると思いますので、重ねてその点はお伺いしたいと思います。

一 一ページの八目交通安全対策費一九節で百五十万の支出ですが、配電線工事利用者負担金とはどういうものか伺いたいと思います。

それから、一二ページ二項一目一一節需用費の中で、接待用食糧費三十万円はどのような接待費か伺います。

一四ページ五項一目一三節の委託料百万円については、中間報告がありましたので質問は取り消します。

以上でございます。

○総務部長（鈴木弘道君） 質問の第一点の寄付金の内容についてお答えいたします。

寄付金の総額四百五十八万円の内訳でございますけれども、合計 岩尾氏からの四百万円、青柳青年館建設ということで四十万円、奨学資金十八万円、以上です。

○民生部長（石井 謙君） 一〇ページの災害費の二百万でございますが、午前中申し上げたとおりでございます。もし火災が類焼した場合には予備費を充用するというような考えでございます。

それから、一二ページの交通安全対策費配電線の工事の利用でございますが、これは宮城から茂名に通ずる隧道の中に点灯するわけでございますが、その配電線の工事の負担金でございます。

清掃費の食糧費の三十万円でございますが、これは衛生センタ

ー用地の確保に伴います関係住民との話し合いの場とか、今後相当食糧費的なものが見込まれるわけでございますが、そういうような住民との話し合いの接待費に充てたいということ、もう一つは先進地等の視察も当然関係住民にしていただかなければならないというような場合も生ずるわけでございますが、そういうような関係を踏まえまして三十万円をお願いした次第でございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） 九ページの寄付金の問題ですが、四百万円を計 岩尾氏から寄付があった、これは故人の遺志もあると思いますけれども、計工務店は大体市の主な事業の発注を受けているわけです。そういう点で市と特別に関係の深い請負業者からの献金、本人が亡くなったときの遺志で出したといっても、むしろそういう業者からの寄付は辞退すべきではないかというように考えます。とかく業者からの献金とか、そういうようなことがどこでも問題になるわけですが、いろいろ名目はあるにしても、そういう点では辞退した方がよかったのではないかとというふうに考えますが、この点をお聞かせ願いたいと思います。

それから、一〇ページの防災対策費については、これは対処の仕方の問題ですから承りました。

一二ページの接待費の問題については、三十万といえはそう大きな額ではありませんが、使いようは十分効果的に使うようにしてもらいたいという意見を付けて了解いたしました。

それから、一四ページ一三節の委託料の問題了解したわけですが、これは先だって城山城の中間報告が出て、その内容についてお伺いしたいと思ったんですが、報告が出ていましたので了承いたします。

○市長（半澤良一君） 私は人間の善意を信じたいと思います。大らかな気持ちで故人の善意を素直に受け取ったつもりでございす。

（「了解」と呼ぶ者あり）

○一八番（渡辺軍治郎君） 任意の寄付ですから当然受け取ってもいいわけですが、関係の深い業者だからそういう点での誤解を受ける、そういうきらいもあると思いますので質問したわけですが、一応善意の寄付として了解したいと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で一八番議員君の質疑を終わります。

次、一四番石井輝久君。登壇願います。

（一四番議員石井輝久君登壇）

○一四番（石井輝久君） 午前中に引き続きましてごく簡単に四十八号議案について御質問申し上げます。一点でございます。

一五ページ地方債の前前年度末における現在高並びに前年度末及び当該年度末における現在高の見込に関する調書補正、こういうことでございます。これは午前中の議案でございました財産取得に関連いたしまして、財産を取得する財源が地方債に求められていくことに関連いたしまして、地方債合計が今回の補正で三十四億九千七百三万一千円にのぼってくる、非常に大きいんじゃないか、大きくふくれ上がってくるんじゃないかという質問に対して、総務部長の答弁で地方債は県下二十六市の最低から三番目で決して多くない、こういう御答弁でございました。いずれにいたしましても、いままでの借金の総額で三十億を超えているわけです。それに対します、前に借りた地方債の、要するに借金の総額に対する返済金、これが年々、またこれ五十二年度

決算でも当然質疑の対象になっていくと思いますが、公債費が大体三億五千万ぐらい、毎年何にも事業をやらないで借金返しのために市の六十億前後の財政のうち三億五千万、これは過去の借金に対する返済に充てている。事業費でもなんでもないので三億五千万にのぼる巨額な市民の税金が消えていく。こういうことで、国で言いますと国債政策が三〇%を超えています、いずれにしても県下最低から三番目だから起債認可を受ければ起債でいいんだと、投資効果の問題もありましたし、そういう考え方だけではどうかという気がします。それはそれとして、それは午前中の答弁で一応了としますから、それにつきましては一応質問はいたしません。

ここで質問しよういたしますのは、一五ページの冒頭読み上げました地方債の前前年度末における現在高並びに云々の調書補正、そこで、この一覧表を見る限りにおきましては前年度末現在高見込額がありますけれども前前年度末の現在高は全くない、どこにあるんですか。これはどう見ても前年度末の現在高調書とそれから当年度末の現在高調書、これの補正であって、前前年度末はどこにもございません。これは一体どういうことですか、簡明に、明確にお答えをいただきたい。

ちなみに、当初予算の予算書の一九〇ページ、これ同じです、地方債の前前年度末における現在高並びに前年度末及び当該年度末における現在高の見込に関する調書、表題は全く同じです。ただし補正というのは当初予算には付いていません。これは前前年度末現在高、前年度末現在高見込額、当該年度云々とあります、当初予算。この補正の一五ページには前前年度末出ていない。一

体どういふことかこの点を一点だけ伺います。

○総務部長（鈴木弘道君） たいまの御質問でございますけれども、表題でございますが、地方債の前前年度末における現在高並びに前年度末及び当該年度末における現在高の見込に関する調書これは地方自治法施行規則で定められております予算様式の表題でございますので、一応こういうような表題を掲げたわけでございます。

それと、御質問ありました、表に前前年度末の現在高がないんではないかという御質問でございますけれども、今回の補正では補正に係る部分のみを記載して提案してございますので、前前年度末における現在高は移動がございませんので省略してございます。

○一四番（石井輝久君） 水道の特別会計の表のうたい方、これでも私質問したことがありますして、ひな形、様式が一応あって、これは上級官庁に報告したりいろいろありましようけれども、確かにそうですよ様式があります。しかし様式があるからといって一覽表に——これは前前年度末及び当該年度末における現在高の見込みに関する調書、幾らひな形だからといっても内容のないものを出されちゃ困りますよ、どこにもないんだから。私も持っていますよ施行規則とか、引っぱり出せば出てきますよ、ひな形は。だけれど内容は伴っていないんだ。そういう表題のもとに審議をしろといっても審議のしようがない。

前前年度末における現在高並びに前年度——一番最初の前前年度末、これを必要がなければ必要ないように——前前年度末現在高ですから五十一年度末の現在高、つまり二十四億四千四百九十

一万八千円、この欄をつくってもらわなければだめじゃないですか、審議のしようがない。表題にあって内容が伴っていない。

なんで五十一年度、前前年度末だったら——おっしゃる意味はわかりますよ。表題が変えられなければ、内容を、区分として、普通債の区分の(1)土木債、(2)農林水産業、これを並べて、普通債で二十二億七千九百八十一万二千元、その下の(1)土木債六億七千三百五十万八千円、ずうっとそれで下の欄に計で二十四億四千四百九十一万八千円、なんで記載してくれないんですか。表題が伴って内容が伴っていないではありませんか。こんな出し方をされちゃ困りますよ。

それは、規格を定められているというのはわかりますよ。それだったらそのようにちゃんと内容を伴ったものを提案してもらわなかったら困るじゃないですか。お宅のほうで勝手に省略されちゃって内容が伴っていないものを、五十一年度はなくて五十二年度と当該年度だけぽんと出して、伴っていないじゃないですか。

前前年度末現在高と言えば、五十一年度末現在高、それはすなわち計で言えば二十四億四千四百万あまり、これ出してくれなかったら審議できないじゃないですか。内容が伴っていない。お答えいたいただきます。

○総務部長（鈴木弘道君） 表の表題は、先ほど申し上げましたように予算に関する調書の一つの様式でございますので、これを変更することはできないわけでございます。今回のこの表についてはいわゆる補正等によって数字の変動するもののみを今回の議会の資料として提出したわけでございます。そういうことで変動のございせん事項についてはここには記載してございません。

○一四番（石井輝久君） これは議案ですよ。資料とおっしゃいましたが、資料はこっちですよ。これは議案であって、資料ならわかるんですよ、省略してあるということは、これは資料じゃないですよ。

前前年度末より上った以上は、前前年度末計で二十四億四千四百九十一万八千円をこの一番前に欄として設けてくれなければ、議案である以上は、前前年度末はないじゃないですか。不備な議案ですよ。このまま審議できますか。うたい文句は、表題は前前年度末における現在高、だけれども内容を見たらどこにも前前年度末——五十一年度末の現在高出てないんです。資料ならいいですよ、ああ必要ないものは省略する。しかしこれは議案そのものですから、表題に掲げたとおりのものをうたってもらわなかったら審議できませんよ、資料じゃないんですから。

これは押し問答になります、それはあんまりあなた——あなたという用語は不適切ですから取り消しますけれども、とにかく午前中の質疑でも、貸付金条例でも、議会に提案するときはこの日から施行しようと思うのなら、適用しようと思うなら、その事前に条例が制定できるように、可決できるようにして、それからスタートしなかったら提案者としては不適当ですよ。いまの議案は不適当であり、かつまた不備ですよ。なぜかなければ表題に前前年度調書とありながら内容に前前年度末ありはしない、これじゃ不備ですよ、私はそう思います。

内容に対しては、決算でまた地方債につきましましてはお伺いしますから、私は不備であり不適当である、こういう出し方は困る、最後にもう一回だけ簡単に御所見を伺って質問を終わります。

○総務部長（鈴木弘道君） 何回も申すようにございますけれども、補正で議案として提出する部分につきましては、いわゆる補正に關係する部分、変動する部分についてのみ提出するというのがたてまえだと思っております。

ちなみに、この表におきましては普通債の全部がここに記載してある区分欄ではございませんで、これ以外の、変動のない民生債とか水田債、すべて掲げてございせんけれども、いわゆるここに掲げてございますのは今回の補正に關係する部分だけを提案してございすけれども、これで補正そのものは、補正予算に關する調書といたしましては、關係する部分だけを提案するのがたてまえであらうと思っております。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で通告者による質疑を終わります。

なお、通告者以外に質疑もあるかと思いますが、以上で質疑を打ち切りたいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長（吉田勇治郎君） ただいま議題となっておりす議案第四十八号及び議案第四十九号の各議案はお手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、認定第一号乃至認定第七号昭

和五十二年度一般会計及び各特別会計決算を一括して議題といたします。

認定第一号 昭和五十二年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十二年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和五十二年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和五十二年度館山市国民宿舍特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和五十二年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和五十二年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和五十二年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について

質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） これより質疑に入ります。

通告がありますので発言を許します。一八番渡辺軍治郎君。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一八番（渡辺軍治郎君） 私は認定第一号昭和五十二年度一般会計歳入歳出決算について質問します。

五ページの固定資産税七億一千三百八十一万円の決算額は、前年対比で一四％の伸び率ですが、収入未済額が四千三百九十二万

五千元、不納欠損額も二十万五千元と市民税の収入未済額の二倍になっております。前年対比では未済額が現年度分で四百二十二万七千元、滞納繰り越しで六百九十三万二千元増加しております。八ページの都市計画税は一億一千九百六十八万四千円で一三％の伸び率ですが、収入未済額七百八十三万六千元で固定資産税と合わせて五千万円の収入未済額となり不況を反映しているものと考えられます。固定資産税、都市計画税とも所得に関係なくかかる税でありますので、一層市民生活を圧迫するものとなっています。本年度は都市計画税率の〇・一％の上昇、来年度は土地の評価がえが行われ、市民に対する税の重圧が予想されます。そこで来年度の土地の評価がえをできるだけ低率で押さえると同時に、小規模の経営や住宅については評価を据え置くべきだと考えますが、伺います。

次に、七ページの特別土地保有税は一億三千八十万七千円で一五％の伸び率になっていますが、千九百八十二万七千円の収入未済額があります。特に滞納未済額が前年度よりも五百二十二万八千円増加しています。回収見込みがあるのかどうか伺います。

次に、一一ページ使用料及び手数料は一億四千八百八十八万三千円で、前年対比で五千万円、五一％の伸び率になっています。この伸び率は他の収入と比較して大幅になっているのが特徴です。内容的には住宅使用料が五四％、幼稚園使用料が六五％、衛生手数料が八五％の伸び率になっています。市長は利益を受ける市民が応分の負担をするのは当然といっていますが、市民生活優先、社会福祉の充実を主張していることと矛盾していると思うがどうか

伺います。

次に、二二ページ寄付金二千三百五十六万三千円は五〇%の伸び率になっています。内容的には市道舗装が四百三十七万四千円、消防が四百七十四万四千円、漁港が百九十八万四千円でありすが、いずれも公費で負担すべきものです。了解を得ているといつても反強制的な不公正な税外負担を押しつけるもので、地方財政法のたてまえから見て不当なものだと思ひますが、お伺ひします。

次に、歳出について三三ページ市長交際費二百九十九万九千円は前年度より二十万一千円増加しているが、その内容について伺ひます。

三八ページ一九節負担金・広域市町村圏事務組合負担金が前年度より八千七百十四万八千円減になっているが、その内容について伺ひます。

四八ページ三款民生費は十二億二千七百四十四万五千円で九・二%の伸び率になっていますが、内容的には四九ページ一九節の補助金で二百六十四万八千円、二〇節の扶助費で四百万の増で、五一ページ八節の敬老祝金も据え置きで五十年度来変わっておりません。物価上昇の中では実質的には減額だと思ひますが、伺ひます。

六三ページ三項水道費一九節負担金・三芳水道企業団負担金四千三百三十一万七千円は、前年度より六百七十八万七千円の増になっているが、五十二年度受水量は前年度より十萬四千四百六十三立方メートル減になっているのにどういふことなのか、伺ひます。

九〇ページ小学校教育振興費、これは前年対比で二百十五万二

千円、九三ページ中学校教育振興費は百六十二万一千円といずれも減になっていますが、需用費、備品費で減少しているのは教育振興を軽視しているのではないかと考えるが、伺ひます。

八一ページ一七節公有財産購入費三千八百五十万円について、中央公園用地はもともと行政財産で、これを売却したり、購入したり、どのような法規に基づいて処理しているのか伺ひます。

最後に、市長は単年度黒字一億五千四百九十六万八千円と自画自賛しているが、借入金増加は実質で四億円の増加、年度末残高の比較でも二億四千三百七十四万六千円の増となっていますがこの関係をどう見ているのか伺ひます。

次に、認定第二号昭和五十二年度国民健康保険特別会計歳入歳出決算について質問します。

一一三ページ国民健康保険税四億三千七百三十七万三千円は前年対比で三%の伸びですが、収入未済額が四千八百八十四万六千円で、不納欠損額も九十四万四千円になっています。実質収支で七千九百九十四万三千円の黒字になっていますが、前年度繰越金が一億九百六十一万九千円あるので、単年度では三千七百六十七万六千円の赤字になります。

そこで、問題なのは、一一九ページ、一二〇ページの助産費千五百九十八万円、葬祭費五百九十一万円、育児費百五十一万八千円、三款の保健施設費二千四百九十九万九千円、合計四千八百三十一万七千円、国の補助金八百四十四万四千円を差し引いても三千九百八十七万三千円の支出、また事務費の超過負担二千四百二十二万七千円が問題になりますが、どう考えているのか伺ひます。

次に、認定第七号昭和五十二年度水道事業特別会計の収支決算

について質問します。

一六ページから二六ページにわたって工事契約が載っています
が、A、B、Cのランクに分けて契約が結ばれていると聞いてい
ますが、どのような基準で決められているのか伺います。

また、指名入札がランクごとに適正に行われているかどうか、
これもお伺いしたいと思います。

また、入札に際して予定価格を下回る者があったかどうか、工
期の遅れはなかったかどうか、この点についてもお伺いしたいと
思います。

○市長公室長（汐崎政光君） 三三ページの市長交際費について申
し上げます。

五十二年度におきます市長交際費の支出別の内訳でございま
すけれども、慶弔費関係で前年度対比九七％、各種団体の行事に対
する助成、祝金、この関係で九〇％、接待費で一〇三％、諸会議
の会費、出席者負担金、この関係で大体二倍になっております。
今回におきます交際費二十万一千六百八十三円の増、これは諸会
議の負担金、この関係によるものが主なものであります。

それから、三八ページの一九節負担金補助及び交付金におきま
す安房郡市広域市町村圏事務組合の負担金、この負担金の減額で
ございますけれども、これは五十一年度におきます決算にありま
して一億三千二十二万二千二百四十四円の繰越金がございました
が、今年度におきましては六千九百八十万二千六百五十九円の繰
越金、この繰越金の大幅な減少によるもの、このように理解して
おります。

以上、二点についてお答えします。

○総務部長（鈴木弘道君） まず第一点は、来年度が固定資産の評
価がえの時期にあたるので、なるべく上げ幅を低率にという御質
問かと思いますが、現在評価がえについては事務手続き中
でございます、まだ内容等はつきりわかっておりませんけれど
も、課税につきましては公平に行っていきたいというふうに思っ
ております。

それと、土地保有税の滞納額についてはということございま
すけれども、額としては上がっているわけでございますけれども
土地保有税全体といたしますと、前年度が徴収率が八〇・三％に
対しまして五十二年度は八六・八％、率からいくと六％強の増加
をみたわけでございますけれども、今後とも未納の額の減少につ
いて努めていきたいと思っております。

それと、使用料、手数料の大幅なアップの関係でございますけ
れども、財源の苦しい中、また公的な建物及びサービス等の対価
ということで、昨年大幅な手数料アップをお願いしたわけでござ
いますけれども、いわゆる使用の対価として市民の皆さんに少し
でも公平に負担していただきたいというふうに思っております。

それと、寄付金の関係でございすけれども、税外負担という
ようなことでございすけれども、一応先ほども市長から答弁い
たしましたように、寄付金につきましては善意または任意の寄付
金につきましてわれわれは受けているわけでございまして、決し
てこれが強制的なものではないと思っております。

それと、決算の黒字といいますが、繰越額と起債との関係でこ
ざいすけれども、単年度決算におきましては入ったものと出た
ものとの差額が繰越額ということになって出てきたわけでござい

ますけれども、その中の起債につきましては、建設事業等社会資本の充実にために長期にわたって利用できるものについて起債を財源として利用しているわけでございまして、長く使えるものは後年度の市民にも負担していただくという意味において、今後共投資的な経費につきましては財源として起債を利用していきたいように思っております。

○民生部長（石井 謙君） 民生費関係につきまして、四八、四九五〇の総体的に前年から比較して民生費が減額しているんではないかという御質問でございしますが、たまたま五十一年度におきまして九重保育園、あるいは中央保育園の用地購入費が約六千六百万あったわけでございまして、総体的には伸びておるわけでございしますが、こういうような五十一年度におきまして特殊な事情があったわけでございます。

○水道課長（庄司利光君） 六三ページの三項の水道費でございまして、そのうちの負担金補助及び交付金の四千三百三十一万七千円の三芳水道企業団の負担金についてでございます。

これにつきましては、前年度より六百七十八万七千円の増というところでございますが、五十二年度につきましては三芳水道企業団の負担金といたしまして総額で六千五百万円でございます。これを館山市と富浦町、三芳村で負担するわけでございますが、これについての企業債割りにつきましては館山市が十分の七、富浦町十分の二、三芳村十分の一、こういうような負担になっておりまして、これについての館山市の負担金に相当するものは千六百十万七千円でございます。

それから、もう一つの給水量割りにつきましてですが、その年

度の十月までの前一年間の全給水量によりまして計算するわけですが、これについての館山市の割合といたしましては、館山市が給水量におきまして七十三万六千五百三十七立米メートル、富浦町が二十三万四千六百六十五立方メートル、三芳村が十六万五千三百三十七立方メートル、これで数量割りで計算いたしますと館山市が二千七百二十一万ということになるわけでございます。

それと先ほどの企業債割りの千六百十万七千円を足したものが四千三百三十一万七千円の負担金になるわけでございます。

○教育長（安田豊作君） 九〇ページ、九三ページの小学校、中学校の教育振興費が減っているんではないか、教育に支障があるんではないか、このような御質問でございしますが、この減少の原因は子供への学用品の無償交付を打ち切ったため振興費全体で約二〇％——一割近くが減少しております。それと、もう一つの大きな原因は、その中の一八節備品購入費——いわゆる教材費と言われるところですが、これは五十一年度までが——四十一年からですか、十カ年計画で子供の使う、いわゆる教材の充実計画を文部省が立てた、それが終った年です。終って一年間ブランクといえますか、新しい教材基準が出ないで——それは本年の中ごろに出ております、昨年はそれが出なかったということで、館山市としてはいわゆる教材の充実率は八〇％、文部省が十年前に考えた教材基準の八〇％を選っておりますので、そういう面では大きな支障はない、こういうふうに考えております。

○経済部長（太田博雄君） 八一ページの一七節公有財産購入費でございしますが、これは中央公園の土地の購入費でございします。中央公園は都市計画公園となっておりますので、都市計画費の中の

公園費によりまして購入いたしましたものでございます。

○民生部長（石井 謀君） 国保会計につきましてお答えいたします。

助産費、葬祭費、こういうようなことにつきましては任意給付というようなことで現在行っておるわけでございますけれども、そういうような関係で、これは当然任意給付でございますので条例に基づいてやっておるわけでございますが、ただこうした病気でないものを保険税で出すことについては保険税にはね返るといふことも考えておるわけでございますが、あくまでも任意給付というところで各市町村も行っている関係で、現状のままで続けていきたいということでございます。

ただ、保健施設費の中の保健婦施設費でございますが、これは二千四百九十二万四千円でございますが、五十二年度が最後で、五十三年度から一般会計によって支出するということで、保険会計からは五十二年度をもって終り、こういうことに相なるわけでございますので、相当の額が保険へはね返ってくる、そういうようなことも考えられます。

○水道課長（庄司利光君） 水道工事の契約の關係でございすけれども、指名入札につきましては、館山市建設工事等入札参加資格審査規程等に準じて行っております。

それから、指名入札は適正かどうかということでございますが、適正に行っているものと思っております。

それから、指名入札の結果でございすけれども、重要な契約の、百万以上の契約につきまして三十一件指名競争入札を行っております。そのうち落札したものが十六件でございます。あとの

十五件につきましては落札いたしませんで、地方自治法施行令第百六十七条の二第一項第六号によりまして随意契約を行っております。

それから、工期の關係でございすけれども、配水管工事につきましては給水工事との關係がございまして多少工事をやっている過程におきましては遅延した面もございすけれども、一応予定どおり終ったものと思っております。

○一八番（渡辺軍治郎君） 五ページの固定資産税の問題ですが、私がこれを問題にしたのは、収入未済額が多過ぎるんです。市税全体では九千二百万、そのうちの半分以上を固定資産税と都市計画税が占めているわけです。特に滞納繰越分の未済額がふえているわけです。このことはいまの不況を反映して、かなり固定資産税が重いということが市民の中では言われているわけです。そういうことを反映して収入未済額が、あるいは不納額が出ているというようなことを考えまして、それでことしは都市計画税は税率が上がったわけです。その分だけでも六千万くらいの収入があったわけです。それから来年の評価がえは上がった都市計画税率と合わせて評価がえが行われると大変な税負担になると思うんですよ。〇・一%でもかなり大きな額になるし、それと評価がえでまだ何一〇%か上がると、評価がえに伴って固定資産税も上がるわけです。かなり大きい負担になるわけです。

私のところに持ち込まれる借地、借家問題は、いつも評価がえが行われて固定資産税が上がると便乗値上げということとかなり問題が起こっているわけです。私がことしになって経験した銀座通りのちょっと奥に入ったところですが、非常に固定資産税が高

いんです。そこでは結局土地を借りて家を建てているんですが、一万八千円くらいの地代を払わなければいけなくなっている。一万八千円という家を借りて家賃を払う額も大体同じくらいとられている。その原因はやっぱり固定資産税が上がるから、大体固定資産税の二・三倍ぐらいの地代を払っているわけです。それで一万八千円から一万九千円くらいの地代になっている。これは自分の家を建てても結局家賃を払うと同じような形で地代を払う。固定資産税の低いところと高いところかなり差がありますけれども、評価がえや固定資産税が上がったために、おそらく来年度あたりはかなり市民生活を圧迫するんじゃないかということで予想されるわけです、実際われわれそういうところに関係して。

ですから、そういう点では評価がえを都市計画税が税率で上がった分ぐらい下げるとか、評価を加減するとか、それから小規模の住宅とか経営というのは大きなところと違う、小規模住宅について、大体不況の中であまり所得がふえてないんですよ。だからそういうところでは評価がえを時期だから例によってやるということではなしに据え置くぐらいの考えがあつていいのではないかと。結局税が上がって生活を圧迫するということは不況の回復を押さえているわけです。そういう点で非常に大事だと思ふんです。

答弁では、ただ公平にやる、当然これは税ですから税負担の公平ということは期さなければいけないと思いますが、場所によってかなり不公正があると思ふんです。だから、かなり駅に近いところでは評価が高いんです。駅からずっとウナギの寝床のように奥へ入った住宅地になっているわけですが、そこがやはり駅から近いということで高い固定資産税になっている、評価がえもやっぱ

り高くなってくる。そういうところはある程度実情に見合つて公正にしてもらえないか。その点を一点お伺いしたいと思ひます。それから、できれば評価がえはそういう小規模な所は据え置きにできないかどうか。

それから、特別土地保有税の問題について、これもやはり滞納額相当大きいわけです。この原因がどういふところにあるのか。答弁では、収入未済額の減少に努めるというふうなことです。原因がはっきりしないと未済額が出ないようにはしていくこととはむずかしいと思ふんです。だから、収入未済額の起こる原因がどういふところにあるのか、その原因を知らなければそれに対して手当をしていくということではできないわけです。その点をお聞きしたいと思ひます。

次に、使用料及び手数料の問題ですが、この点について回答ありましたか、ちよつとわからなかつたんですが……。

これは割合に使用料、手数料多いんですよ、一般の支出と比べて。平均で五一%伸びているわけです。こんな大幅な伸びはないわけです。その中で伸びているのが市営住宅の使用料、幼稚園使用料とか衛生手数料、こういう公共料金といひますか、そういうようなものが大幅に伸びている。いつも受益者負担問題にするんですが、市長は受益を受けている市民が応分の負担するのが当然だといひているんですが、逆に社会福祉との関係から見れば、できるだけこういふようなものの値上げはやはり押さえていくといふふうな方向がとられていいんじゃないかと思ふんです。市長はいつも言っているように市民生活優先、社会福祉の充実という面から考えて、幼稚園使用料とかごみの手数料とか住宅使用料とか

いろいろ住民との関係でかなり生活に結びついたそういう面の収入です。ですから、できるだけ市民生活のことを考えて押さえていくのが当然ではないかというふうに考えます。市長の考え方としては受益者負担ということを広く解釈していますが、私ども受益者負担という考え方は特に利益の強いもの、一般的なことについてはできるだけ押さえていくというのが当然だと思いますが、その点について再度お伺いいたします。

四番目の寄付金の問題について、これは市長も総務部長も善意、任意の寄付は当然だということですが、私がここで内容的に指摘しているのは消防とか市道の舗装とか港湾の——負担金に伴う寄付だと思いますが、そういうものを受益者負担としている。港湾の問題はこれはここで論議すると長くなりますけれども、消防と市道の問題についてはだけ伺いたいと思うんですが、市の道路は公共的な事業なんです、市が管理者で、市の管理で責任を持って税でまかなう性質のものなんです。これを寄付金があるからといってそれでやるというのは行政上問題があると思うんです。下の方では町内会長を通じて、ある程度額が多ければ割り当てというふうなことになりますし、半強制的なものにならざるを得ない。

それから、消防の寄付なんか、これはどこで火事があったって類焼するおそれというものがあるから、消防は分団消防というふうなものも備えてやらなくちゃいけないわけで、この問題も公共的な面は強いと思うんです。ただ一分団のポンプを買うとか、そういうような寄付じゃないと思うんです。館山全体の火災とか、そういうものに対処して分団は消防をもっているわけですから、

そういう消防のごく一部の分団に寄付を求めるといやり方は、これは消防組織法で、市長が管理して費用は全部市で負担するということになることになっているわけですが、消防組織法にも違反するわけです。

こういうような行政的な問題に対する寄付は、これは当然税外負担になるんで不公正になると思うんですが、そういう点では公費で負担すべきものだ、これは地方財政法のたてまえです。地方財政法の実例の中にもやむを得ない経費の支出である場合は税金云々というようなこともあるわけです。税で負担するのが当然だと思いますが、その点ではただ善意、任意といっても理解できないわけです。その点をお伺いいたします。

それから、市長交際費の点については、接待費が一〇三%とかなり多く出ていますが、増加分は諸会議の負担金ということで、これは一応了解します。

それから、広域市町村圏事務組合の負担金の減少、これも繰越金ということで一応了解いたします。

それから、民生費の問題についてですが、これは伸び率は九・三%で少ないわけですけれども、全体としては。ただ、しかし民生費の中で心身障害者とか、交通遺児だとか、手をつなぐ親の会とか、いわゆる恵まれないところへの支出は五十年来変わっていないんです。一九節の補助金や二〇節の扶助費の中でほんのわずかしにかついでないわけです。

ことに、敬老税金なども五千円のところを三千円に引き下げてそのままなんです。丸山町でも五千円は出している、予算規模とすれば七億かそこらの予算規模です。そういうところでも五千円

の祝金を出しているわけです。老人福祉手当としても、上がって
も一万六千五百円ですか、福祉年金そのものも低いわけです。い
まの物価高からみたらそういう点ではもっと出してやらなくちゃ
いけないような状況だと思うんですが、その中で敬老祝金が減っ
たままで据え置かれているというのでは、これは改正する必要
があるんじゃないかというふうに考えますが、そういう点では、
こういう面の支出は、市長の言う福祉の充実というようなことか
ら見て、もっと増額すべきではないかと思えますので、重ねてお
伺いいたします。

それから、六三ページの水道費の三芳水道企業団の負担金の問
題ですが、私が聞いたのは、水道特別会計のあれを見ますと、十
万四千トン受水量が減っているんですよ。これは水道会計の一九
ページにありますけれども、この内容で見ると、前年度と五十一年
度比べてみて、五十二年度は九万二千二百三十立方メートル、
五十一年度は一九万六千六百九十三立方メートルになっているわ
けです。だから五十一年度と五十二年度比ますと十萬四千四百
六十三立方メートル減っているわけです。受水量が減っている
のに六百七十八万七千円負担金では増加しているけれども、その
点はどうなのかということを聞いています。そういう点で
は先ほどの御答弁でちょっと了解できませんので……。

それから、小学校、中学の教育振興費の問題では、軽視してい
るのではないかということで、備品購入費、そういうような点で
教材費の無償といいますか、そういうものも合わせて減少してい
るようなことなので一応この点は了解しますが、できるだけ予算
で組んだものは、結局生徒の使用する教育上重要なものですから、

予算は消化して使ってもらい、前年度と比べて減っているという
ようなことではちょっと具合が悪いのではないかというふうに考
えるので、この点は十分お願いいたします。

それから、公有財産の購入費で、私が聞いたのは、中央公園は
都市計画の中に入っているわけですが、行政財産ですよ、中央公
園というのは。公共の用に供しているのは行政財産であるわけ
でしょう。行政財産と普通公有財産とは取り扱いが違うわけです。
行政財産——特に土地の場合は売ったり、譲渡したり、そういう
ようなことは禁じられているわけです。それなのに中央公園の土
地を——公社といっても財団法人ですから、それに売ったり、売
ったやつをまた買い戻すというようなことがやられています。私
が聞いているのはどういふ法規といえますか、規定によってや
られているのか、そこをお聞きしているわけです。わかりますか。
行政財産と普通公有財産の処分の問題ですが、どういふ法規でそ
ういうことができるのか、それをお聞きしているわけです。

それから、単年度黒字の問題ですが、これは一方で現金会計で
すからそこで黒字が出ておる。借入金が入れば実質的には
プラス、マイナスゼロというような形になるし、むしろ借入金の
ほうがふえているというような形ですから、健全財政だといって
手放して喜ばないというふうに考えるわけです。そういう点では、
実際問題として、追及してもしょうがないかもしれませんが、現
実に帳簿上では一方で黒字が出て、一方で起債がふえていると
いうようなことで、実質的には黒字ではないんではないかという
ふうに考えます。その点をお聞きしたいと思います。

それから、国民健康保険税の問題ですが、ここで問題にしてい

るのは、助産費とか葬祭費、育児費とか——保健施設費は五十三年度から一般会計のほうに回りましたから問題になりませんが、一応市の単独事業として、補助事業ではないわけです、助産費を除けば、葬祭費とか育児費というものは補助がないわけで、当然これは、ほかでもこういう形でやっているということですが、福祉関係の会計の費用に回すのが当然だと思ひ込んで聞いたわけです。実質的には国民健康保険税会計は繰越金を除けば単年度では赤字になるわけで、そういう点でこういう経費はやはり重い経費になっているんじゃないか。合計で三千百八十七万三千円ありますから、それに事務費の超過負担が二千七百万くらいある、そういうものを含めますとかなりこれが保険税を押し上げる、そういう役割を持っているわけですが、こういう問題について何とか保険税を低く押さえていくためには国の補助金なり負担金を増すとか、そういうことができればある程度市のほうで一般会計からの繰り入れも考える、これは将来の問題で医療費がもっともっと上がってもっと税金が上がるということになると、国民健康保険税はかなり重い負担になっていきますから、そういう点でけこういう問題を考慮する必要があると思ひますので、そういう点をお伺いします。

それから、水道特別会計のA、B、Cのランクの基準の問題ですが、これは市の規定によってやっているということですが、私が開いたところでは、Aランク、Bランク、Cランクという三つの段階を決める場合に、売上高によって決めているというようになことを聞いているわけです。売上高で決めると、材料をもって事業をやった人は売上金の評価が上がるわけです。ところが材料支

給でやったところは結局売上高は上がらないというようにことで、仕事は相当多くやっけていても売上高で基準を見たらかなり不公正になるのではないか。そういう点で、審査規定の内容があると思ひますが、具体的に、売上高で評価をしているというようにことも聞かれていますので、そこらはどうやっているのか。

また、指名入札適正にやっているというようにことですが、AランクのものがBランクの中へ入ってきて入札を受けてきている、あるいはBランクのものがCランクの中に入ってきて入札を受けているということ、入札の内容の問題で不公平があるというふうに聞いていますが、その点はどうなんでしょうか。

それから、予定価格を下回るといふようなものも、これは百万円以上のもので十五件が随意契約になっているというようにことで、下回って無理な入札をすれば、これはその仕事の完成について影響するわけですよ。低い額で入札をして無理な入札をするというようにことで、随意契約がそういうようなあまり低い額であったので随意契約になったのか、そこらへんがよくわかりませんが、大体二五ページの受託給水装置工事の概況ということで載っています、これで見ると契約内容は二十四件あるわけです。そのうち高橋農機の受けているのが八件あります。二十四件のうちの三分の一は高橋農機が入札を受けているわけです。こういう点ではかなり片寄っているという、無理な入札で片寄っているのではないかといいような見方もできるわけですが、無理な入札をすれば当然工期が遅れたり、仕事の内容も悪くなるわけですから、そういう点でいま一度お聞きしたいと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午後二時二十八分 休憩
午後二時四十五分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○総務部長（鈴木弘道君） 固定資産の評価がえの関係でございすけれども、先ほどもお答えいたしましたように、評価手続きにつきましては現在事務を進めている段階で、はっきりしたことは申し上げることはできませんけれども、お申し出がありましたように土地の評価につきましては公正に行う、これはこういう方針でやっていきたいと思ひます。

それと、土地保有税の関係で、収入未済の理由を検討したかというような御質問かと思ひますけれども、御指摘のとおり現在のような経済情勢の中におきましてそういうような影響を受けて、未納額といひますか、滞納者がふえているであろうといふことは予想されるわけでございすけれども、われわれといたしまして、そういうような中におきまして、なるべく早く未納額を少なくするという方針で、できれば一括納入をお願いするとか、また市外の納入者に対しては郵便振替制度を利用してもらう、そういうような方針で滞納額の減少に努めておるところでございす。

それと、中央公園の関係でございすけれども、これは普通財産として市の開発公社に売り渡したものでございす。

それと、水道の関係でございすけれども、入札資格者の審査規程の関係でございすけれども、これは自治法の施行令の百六十七条の五、これを準用いたしまして百六十七条の十一によりまして入札資格者の基準を定めているわけでございすますが、これは契約の工事、または製造の実績、それだけではなしに従業員の数

ですとか、資本の数ですとか、その他経営の状況、規模等を勘案して公平に審査しているといふことでございす。

○市長（半澤良一君） 使用料、手数料が大幅に伸び過ぎて、高過ぎるんではないか、もっと安くすべきだという御意見のようでございすますが、使用料、手数料をただ安くすればいいというものは私はないと思ひます。社会通念上適正な使用料、手数料であるべきだと考へているわけでございす。現在執行しております使用料、手数料は、いづれも議会の承認を得て決めているものでございまして、適正だと考へております。

高いのは福祉に反するんではないかという御趣旨でございすましたが、やはり適正な使用料をいただくことによつて市の赤字をなるべく少なくして、市の持ち出しを少なくして、そのかわりたえば市営住宅とか、保育所の施設とか、そういうものを充実していくことが福祉のあり方だといふふうに考へております。そういう方針に基づいて、本年度も市営住宅を昨年に引き続き建築をしている、私は今後ともそういう方向でいきたいと考へております。

寄付金の問題ですが、道路とか消防の負担金の全廃をすべきだとの御意見でございましたが、やはりこの寄付はいずれも——先ほど総務部長申し上げましたように、自発的な意思に基づく寄付金でございまして、決して強制しているものではないでございせん。

ただ、方向としては、道路の寄付金も、消防の寄付金もなるべくいただかないような方向で、毎年その率を減少しているわけでございす。

それから、民生費のことに関連いたしましたして、手をつなぐ親の会とか、そういういった思はれない人々に対する補助金を出すべきだ

という御意見でございましたが、確かにそれも一つの考え方でありまして、私も、私はむしろ市の行く施策といえますか、施設の面で充実を図ることが福祉の向上に役立っているのではないかと考えているわけでございまして、たとえば今度市営住宅の中に身障者用の部屋を四つばかりつくるわけでございまして、それにつきまして今度の議会で追加予算をお願いしているわけでございまして、けれども、こうした施設の充実、あるいはこの間も通告質問でございまして、福祉作業所といったような施設をつくることとが福祉の充実に関係する、そういうふうに考えているわけでございまして。市営住宅の、そうした福祉施設の建設は民生費には出てまいりませんけれども、そうした幅広い意味で、私は単に民生費の金額をとらえるだけではなくて、幅広い市の政策の中で福祉を充実していくべきだと考えているわけでございまして。必ずしも民生費という項目の中にある金額だけでとらえて福祉が劣っているとか劣っていないという考え方はしたくないというふうに考えているわけでございます。

敬老祝金の問題もございましたけれども、これはちょっと質が違ひまして、これはあくまでも福祉施策という形でなくしてお祝い、お見舞の金でございます。必ずしもこれも金額をふやすことが福祉につながるというふうには考えていないわけでございまして。

現に、五十一年度から品物ということにしたわけでございまして、いつかも御答弁申し上げましたけれども、五千円差し上げたときにはあまりお礼の電話もございませんでしたけれども、最近はお祝い品をあげることにしてお礼の手紙をいただいたり、あるいはお礼の電話をいただいたりしているわけでございます。こ

れはおのずから福祉とは性格の違うものとして御理解いただきたいと思うわけでございます。

○水道課長（庄司利光君） 三芳水道企業団の負担金の関係でございまして、これは前年度五十一年度につきましては五千三百万円であつたわけでございます。したがしまして五十二年度につきましては千二百万の増加で六千五百万ということですが、三芳水道企業団の経営内容によつて千二百万にふえたわけでございまして、そういうわけでございまして、これに基づきまして三芳水道企業団規則によりまして計算しましたものが、先ほど説明いたしました企業債割りと給水割りの合計で四千三百三十一万七千円ということでございます。

○民生部長（石井 謙君） 国保会計の中の助産費、葬祭費、育児諸費につきまして、これは福祉行政の中で取り上げて、こういうような経費を保険会計から移行しろというような御質問でございまして、この三つの経費につきまして先ほども申し上げましたように任意給付の形でやっておるわけでございますが、またまた助産費につきましては国から三分の一の助成があるわけでございまして。そういうような関係で他会計に移行するということは困難でございますが、また考え方によりましては、国民健康保険というのは相互扶助というふうなことで、悲しいとき、またお祝いのとき、そういう問題をお互いに悲しみ合い、楽しみ合うというふうな形でやっていくものでございまして、こういうような実際的に葬祭費とか、育児諸費については現時点において国の助成対象にはなっておりませんが、機会あるごとに当然国でこういうようなものに対する補助、こういうものを要求しておるわけでござ

ざいすけれども、現時点ではこういうような国保会計の中でや
っていくという考え方でございます。

○水道課長（庄司利光君） 給水工事の契約の關係でございすけれども、契約本数はここに記載されていますが二十五件ございす。そのうちから、すべて入札なわけでございす、入札で落札した關係が九件でございす。そのほかの十六件につきましては入札しなかったものでございす。ですから十六件につきましては自治法施行令の關係で隨意契約によったわけでございす。

それから、工期の關係でございすけれども、給水工事につきましては配水管布設の進行状況に従いまして、その該当する工区を発注したわけでございす。したがって一番最初は五十二年の七月から発注したわけでございすけれども、そういうことから工区が二十五工区ということになったわけでございす。

無理な入札の關係のものはあるかどうかというようなことでございすけれども、入札については落ちないほうが多かったというところでございすけれども、その中に、何件かについてはある程度下回った、それ以外の、落札した九件の中にはある程度下回ったものがございす。

○一八番（渡辺軍治郎君） 水道の負担金が六百万ふえているわけです。ところが受水量のほうが減っているんです。受水量がふえて負担金がふえるというならあたりまえなんです、十萬四千トンも受水量は減っているわけです。ところが五十二年度の負担金のほうはふえているわけです、六百萬。そこがわからないんで質問したんです。起債の負担割合は決まっているわけです。あとの増加分というのは配水量の問題、そういうような問題で負担金が

決まるわけですから、だから配水量が減っているのに負担金がふえるというのはおかしいわけです。そこをお聞きしているわけです。水道のほうのあれで出ているわけです、十萬四千減っているということ。そこがわからないわけです。負担金は六百萬ぐらいふえて、しかし受水量のほうは減っている、これはおかしいんじゃないか。

もう一つは、中央公園の問題ですが、普通財産で処理したというふうな御答弁です。公共の用に供している公園は行政財産じゃないんですか。公共財産とすれば地方自治法の二百三十八条の四に該当するわけです。ここでは「行政財産は、次項に定めるものを除くほか、これを貸し付け、交換し、売り払い、譲与し、若しくは出資の目的とし、又はこれに私権を設定することができない」というふうに定めているわけでございす。普通財産の処分の場合、この場合を除いたものについては買収とか、そういうようなことを決めているわけです。だから行政財産の処分か、普通財産の処分かでは行政財産の処分ではないかというふうに考えられるのでお伺いしたわけです。

だから、大体私が問題提起の中で納得できないのは、水道負担金の問題と中央公園の売ったり、買ったりの問題なんです。そこをわかりませんから……。

○水道課長（庄司利光君） 三芳水道の負担金については、館山市と富津町と三芳村で負担する全体の額が前年度に比較しまして千二百萬増額になったというところでございす。したがって、負担金を計算した場合には、給水量は減っても増額になるわけでございます。

○総務部長（鈴木弘道君） 先ほどの、財産の扱いでございますけれども、昭和四十五年の六月定例会だろうと思うんですが、議案第五十九号で提案して議会の御承認を得ているわけでございますが、これによりますと、北条小学校の公用廃止後に市有財産を売却するというところでございますので、いわゆる北条小学校用地そのものは御指摘のとおり行政財産でございますけれども、いわゆるこれを移転後には行政財産を廃止して普通財産にして、それによって売却したということでございます。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で通告者による質疑を終わります。通告をしない議員で質疑もあらうかと思いますが、以上で質疑を終結いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）
○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。質疑を終結いたします。

決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

ただいま議題となっております昭和五十二年度各会計決算については十人の委員をもって構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにいたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって決しました。

重ねてお諮りいたします。

ただいま設置されました決算審査特別委員会委員の選任について委員会条例第四条第一項の規定により

四番議員	押元 徳君	一〇番議員	流山源次郎君
一番議員	近藤 好雄君	一四番議員	石井 輝久君
一七番議員	石井 武敏君	一九番議員	渡辺 昭夫君
二〇番議員	和田 一郎君	二三番議員	菊井 敏博君
二六番議員	藤田 益治君	二八番議員	石井 正君

以上十名を指名いたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よってただいま指名いたしました十名の諸君を決算審査特別委員に選任することに決しました。

ただいま選任されました決算審査特別委員の方々は、のちほどこの議場において正、副委員長の互選を行いますので、御了承を願います。

延 会 午後三時五分延会

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明九月二十七日から十月三日まで委員会審査のため休会、

次会は十月四日午前十時開会いたします。その議事は議案第四十六号乃至議案第四十九号及び認定第一号乃至認定第七号に係る各委員長の審査の経過並びに結果の報告、討論、採決及び追加議案の審議いたします。

○本日の会議に付した事件

一、議案第四十六号乃至議案第四十九号、認定第一号乃至認定第七号

二、決算審査特別委員会の設置、付託、委員の選任

